第９期淡路地域ビジョン委員会第４回全体会　概要

１　日　時　平成 30 年 10 月 6 日（土）13:30～15:15
２　場　所　洲本総合庁舎内　3 階会議室Ａ・Ｂ
３　参加者　淡路地域ビジョン委員等　19 名
（委員 15 名、講師 1 名、事務局 3 名（平岩班長、中野、山田））
４　議事概要
（１）開会

（２）開会あいさつ
小田　美根子　委員長

（３）講演　「暮らし続ける幸せの島・淡路島を目指して」
講師　NPO 法人淡路島 SPO 支援センター
代表理事兼事務局長 李　貫一 氏

①幸せアイランドを創る
・メインテーマは、いかに地域・人を巻き込んでいくか。
・西脇市でまちなかの再生アドバイザーもしている。今日お話するような内容が施策のプランとして位置付けられ、中間支援というものが必要となり、住民が中心にならないと動かないという危機感がある。
・コミュニティビジネスの推進を生きがいサポートセンターで 10 年近くやっている。
・持続可能性を重視したビジネスを推進し、地域課題解決に貢献して生きていく。
・トヨタとソフトバンクが提携した。トヨタも危機感を持って IT 企業と連合した。

②課題先進国
・地域も大きく変わる転換期にある。気候変動、地震、エネルギー自給率は 4%。幸いにも淡路島は自然エネルギーが 3 割有り、食料自給率も 100%を超えている。淡路島の可能性は大きい。
・森林の国土占有率は 66%、林業従事者の全就業占有率は 0.1%。
・製造業の精算額はピーク 1991 年から 32%減。
・人口の減少、高齢化、国も 70 歳まで仕事をしてくださいと打診している。空き家の問題もある。
・子供の虐待の問題もある。
・単独世帯が増えている。孤独死も増えて未婚率も高くなっている。

・育児休暇が取れていない。
・生活保護受給者は 176 万人。
・医師数は人口 1,000 人に 2 人。
・自殺者も増えている。
・SDGs は、国連で 2030 年に向けて色んな課題を解決しましょうという中で、環境や貧困を途上国に先進国を含めて変えていこうという取組。根本的に社会を変えていくということがベースになっている。
・日本は課題解決先進国に成り得る。

③これからの地域を考える
・地域住民が主役の地域づくり。
・格差は拡大してくる。不安を抱えながら生きていかなければならない。地域が安心できないかぎり安心して暮らせない。

④私のしごと
・生きがいサポートセンター播磨東で、年間 20 くらいの団体を立ち上げて、運営相談も行っている。県下 6 箇所ある。
・社会的な活動は、ピーター・ドラッカーの著書『非営利組織の経営』を担っている。「変革のために NPO ができることは、人と社会とのかかわりを強め、問題解決の参加の手法を多く提示し、人々をして、それを使えるようにすること。新しい問題が常に発生している社会において、人々の問題解決能力を高めること。人々に自分の能力を信じさせ、どんな困難な課題でも克服できるのだという思いを現実のものにすること。ＮＰＯは人と社会の変革を目的にしている。」
・人と社会とのかかわりを強め、問題解決の参加の手法を多く提示し、人々をして、それを使えるようにすること。会計等の事務的アドバイスをすること。

⑤コミュニティビジネス
・今後、コミュニティビジネスは地域づくりの大きな手法になってくる。
・「地域の問題は、そこに住む自分たちの力で解決しよう」という思いから始まり、その活動を安定的に続くて行くために「ビジネス」という手法を用いて収益を生み出す活動(事業)。
・地域資源を活用。
・地域の雇用を生み出す。
・地域の課題を当事者である住民が解決する取組みを支援する。昔は行政がする仕事だった。問題が複雑。行政にお金がない、公正性が問われる。人がいない。
・地域課題の起こっている場所は、企業のサービスは利益が上がらなけ

れば撤退する。行政サービスの無いところに多くの地域の課題が残っている。
・5 歳の女の子が虐待で死亡する事件が起こった。児童相談所も関わっていたが亡くなってしまった。地域でできることはなかったのか。
・地域に居場所があって、家族全体をサポート出来ていれば事件を防げたのではないか。米田家の「みんなでいっしょにごはん」もそんな問題提起の一つだ。

⑥大きな背景に少子高齢化
・淡路島の人口は 2040 年に 10 万人を切る状況が出てくる。生産年齢の減少。単身世帯の増加。生活保護世帯の増加。空き家の増加、耕作放棄地の拡大。小規模集落（世帯数 50 戸以下で高齢化率 40%以上の集落）の増加。県下でも高齢化率が 5～12 位に入っている。

⑦社会構造の変化
・多様化・高度化する価値観やニーズ。都市化・少子高齢化の進展による核家族・単身高齢者（夫婦）世帯の増加。➡地縁・血縁によるコミュニティへの帰属意識が希薄化。新たな人間関係に基づくコミュニティづくりが必要になってきている。

⑧経済構造の変化
・経済のグローバル化と企業間競争の激化や製造業の海外生産拠点の増加で空洞化している。➡中心市街地の商店街の衰退、能力活用機会の不足（若者・高齢者・女性・障がい者）。地域内での循環型経済活動のしくみづくりが必要になってきている。

⑨行政の役割の変化
・社会保障費の増加と景気低迷による財政難、行財政改革、規制緩和の推進画一的・公平・平等な行政サービスの限界。➡官から民への事業委託の実施。住民と協働してやるという仕組みや流れに時代が変わってきている。
・共通しているのは、全てが住民の参画なしに解決できなくなってきている。防犯、福祉、教育等。住民の参画をどうやって推進していくかが今後重要になってくる。
・だれがその仕組みをつくるのか。住民自らが考える。一人では解けないので、みんなで考える。

⑩事業づくりの基本
・今後、住民を巻き込んでいく動きは、ボランティアや慈善的精神では

なくてニーズだ。事業づくりと同じで、自分の出来ること、やりたいこと、社会が求めていることが重なった時に事業ができる。

・ピーター・ドラッカーの言葉から、「現代社会では、もはや直接的な市民性の発揮は不可能である。我々が行えるのは、投票し、納税することだけである。しかしＮＰＯのボランティアとして、我々は再び市民となる。社会的な秩序・価値・行動・ビジョンに対して、再び直接の影響を与えられるようになる。自ら社会的な成果を生み出せるようになる。」自らがそこに関わっていくという時代になる。

・地方行政は事業型の地域づくりが必要だということで、地域の活性化を図り、豊かで安全・安心な生活を実現していくためには、多様な担い手が参加するというのがキーポイント。上勝町の葉っぱビジネスのように、地域資源を活かしながら、地域の現場の活力と知恵により、地域における新たな職や生活サービスを生み育てていくことが必要。税金配分依存型社会からの脱却ということになる。

⑪ソーシャルインクルージョン

・全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う。

・どういう地域の形を目指すのか。➡誰もが社会のよき意図で関わることができ、無理なくその役割を果たし、その創造的な営みを楽しむことができる。ここに人を繋ぐポイントの言葉が入っている。楽しみながらというのが人を巻き込むことに重要だ。➡そうした市民の力により持続可能な社会を実現する。

⑫映像視聴

・九州新幹線全線開通

https://youtu.be/UNbJzCFgjnU

※九州新幹線が開通した時に住民に呼びかけた時にすごい広がりを持って参加して沿線で祝ってくれた。人を巻き込んだ共感、楽しさを感じ取って欲しい。

・I am blind help me　！

https://www.youtube.com/watch?v=IthISUkkOPM

※人を巻き込むときは、自分事にするというのがキーワードになる。目の見えない老人が、「目が見えないので助けてください」とボードにかいて寄付を求めていた。通りがかりの女性が「今日はいい天気です。でも、私は見ることが出来ません」と書いたところ、多くの人の共感を得て寄付を集められた。

⑬淡路島 3 市との連携支援

・淡路市の場合は淡路市市民協働センターを私も一緒につくっていった。南あわじ市の場合は、ソーシャルセンター淡路という中間支援があったので一緒に活動した。洲本市の場合は組織が無かったので、私自らが動いた。
・洲本市の支援メニューとして、相談、寄り添い、人の資源を活かす、事例紹介、気付きのセミナー、まちかどマルシェ等を開催した。住民の興味のあることから関わった。
・地域の中に色んな才能や能力を持っている人がいて、その人たちを巻き込んでいくと、課題を一人で解決できなくてもみんなでやると解決できる。

⑭米田邸プロジェクト

・今年 4 月にオープン。敷地面積 265 ㎡。
・米田邸は、少子高齢化のなかで地域創生の拠点として共助共生社会の実現を目指し、市民のエンパワーメントを高め、人と人、人と地域をつなぐことで地域課題を解決していく場所。

⑮「みんなでいっしょにごはん」プロジェクト（別添チラシ参照）

・若者・子ども支援の柱となる事業。
・自然な子どもの居場所のなかで、声になりにくい子どもの声を聞き、励まし、地域で支えていく場。
・食を通じて、つながり、セーフティネットとなり、地域で子どもを支える場支える大人のエンパワーメントを開発する場。

⑯地域がつながるしごとを創るために

・発想の転換が必要。発展よりも継続。
・地域資源の見方を変える。子育てを終えたお母さん等。
・多様なステークホルダーがいる。大学、行政、企業等。
・多様な資金源がある。クラウドファンディング等。

⑰コミュニティビジネスができるまで

・住民はいろんな問題に引っかかっている。心の中に棘を持っている。
・その問題を知りたいと思う。受け皿が必要。
・深い問題意識が生まれ、どうしたら解決できるか考える。
・構造が見えてくる。そこに共感・心の痛みを感じてくる。
・どうすれば可能か考えて、検証、反証、を繰り返してビジネスモデルをつくる。
・経済的にどう成り立たせるか。お金を生み出すしくみづくり。

・事業計画をつくる。

⑱目指すべき地域

・誰もが社会のよき意図で関わることができ、無理なくその役割を果たし、その創造的な営みを楽しむことができる。➡そうした市民の力により持続可能な社会を実現することを目標としていただきたい。

＜質疑応答＞

小田委員長）

「みんなでいっしょにごはん」の活動をしようと思ったときに、ホテルニューアワジやコープこうべ等への協力はどのように求めたのか。

李氏）

一年前に淡路島の子供食堂についてのセミナーを開催した際に、ホテルニューアワジの木下さんが参加していた。洲本商工会議所にこの取組の報告をしていたところ、木下さんを自然に巻き込んで行った。

淡路島観光ホテルのシェフの堂本さんは、淡路島まちかどマルシェの買い物客として来てくれた。農園もしていることで会話が生まれて、料理長を離れることが分かって声掛けした。

コープこうべは、社会的な取組をする企業であることが分かっていた。コープこうべの理事で尼崎市で子供食堂を運営している方を事例紹介の講師に来て頂いて関係性を築いた。

北坂養鶏場は、普段の付き合いから社会的問題意識があることを知っていた。

今日のキーワードの Win-Win、共感、きっかけを通じて巻き込んでいった。

（４）事務連絡

平岩班長

・兵庫県では、人口減少や少子高齢化、革新技術の世界への浸透など、社会が大きく変化する 2030 年頃を検討し、兵庫の目指す姿や今後の取組の方向性を取りまとめて「兵庫 2030 年の展望」の策定をすすめている。策定にあたっては、第８期ビジョン委員の皆様にご協力いただいた。

・「兵庫 2030 年の展望」の案が出来上がり、県議会に提案している。議会の評決を得て最終決定する見通しとなっている。

・内容について、12 月 8 日（土）に皆様にご説明する機会を設けたいと考えている。説明会当日は金澤副知事から内容を説明させていた

だく。
・意見交換の時間も設けたいと思っている。副知事と直接意見を交わす貴重な機会となるので、資料に目を通していただいてご参加いただきたい。詳細については後日ご案内する。
・説明会の後、第５回全体会を開催する。

（５）閉会あいさつ

原　竜也　副委員長

（６）閉会